



桑原哲也教授遺影

桑原哲也教授を偲ぶ

経済学部長 入 谷 純

桑原哲也教授は平成 26 年 10 月 14 日に 67 歳でご逝去された。早すぎるお別れであった。桑原先生と私は、個人的には長いつきあいである。3 つの大学（京都産業大学、神戸大学、福山大学）で 33 年の間ご一緒させて頂いた。桑原先生は常に私の近くにいる、兄のような存在であった。せっかちな私をいつも笑顔で、諭してくれていたように思う。先生のおおらかで明るいご性格と、独特のイントネーションで楽しそうに語られる様は、今でもありありと思い出される。

先生は平成 22 年 4 月に福山大学経済学部税務会計学科教授に着任され、翌 23 年度には経済学部学部長補佐を務められ、続く平成 24 年度から 25 年度には税務会計学科長の任にあった。桑原教授は、若い学者の研究をあたたく見守り、経済学部における指導的研究者の役割を果たしておられた。平成 25 年度にはご病気を得られたが、それを感じさせず自然に振る舞っておられた。むしろ、傍らから見る者の方がうろたえていたように思う。

桑原先生は着任当初から、備後地域の産業集積の高さに魅了されて、備後地域の企業経営の研究に着手された。桑原教授の備後地域への関心は単に純粋な学問的興味にとどまらず、備後地域の NPO 法人 BSB（ビジネスサポート・Bingo）とのコラボレーションに発展する。桑原教授が主宰する「備後経済研究会」が福山大学経済学部内に開設され、そこには多くの BSB のメンバーが参加された。備後経済研究会による備後地域の聞き取り調査には、東京大学や神戸大学そして大阪大学を始めとする日本の経営学をリードする研究者が参加されていた。

桑原先生の備後経済に関する研究は 2 本の discussion paper

No. 2012-J-007 桑原哲也、鍋島正次郎、玉崎猛、石原進 (2012, June) 「備後における地場製造企業の歴史的展開」。

No. 2012-J-008 桑原哲也、玉崎猛、石原進 (2012, October) 「備後地域の企業経営・1902、1937、1973、2011 年の企業リストに基づく鳥瞰一」。(『福山大学経済学論集』(2013 年、3 月) 第 37 号巻頭論文)

に結実している。これらの研究は BSB のメンバーとの共同研究である。

また、上述以外にも多くの学術研究を上梓されている。例えば、著書（富沢芳亜、久保亨、萩原充、阿部武司と共著）『近代中国に生きた日系企業』2011 年、大阪大学出版会(2011 年度科学研究費出版助成作品)。

論文「工業化初期、日本における協働体経営の形成—鐘紡、武藤山治の役割—」, Korean Academy of Business Historians ed., Journal of Korean Business History, Seoul, Korea, Aug. 2011.

論文 "Business History Society of Japan", 日本経済学会連合編『英文年報』第31号, 2011年12月。

論文「武藤山治と日本的経営の形成」日本経営学会編『経営学論集, 第80集』, 千倉書房, 2011年9月。

論文「日ロ戦後における鐘紡の工程廻り調査」一橋大学イノベーション研究センター編『一橋ビジネスレビュー—日本のものづくりの底力』(2012年冬号)

である。

桑原先生の備後経済への情熱は備後経済研究会を一つのクッションとして、経済学部の税務会計学科に「備後経済コース」を設置することにつながっていく。これらより桑原先生の構想の大きさをうがい知ることができよう。

上述以外にも共同研究ならびに出版予定が数多くあった。今となつては、桑原先生の頭脳の中にあつた計画をすべて列挙することは、もはや不可能であろう。桑原教授は、歳を重ねるごとに研究領域を広げられ、そして分析力を格段に深くなされたのである。

桑原先生が基礎を置かれた「備後経済コース」を我々はシッカリと育てていかねばならないと決意しています。

先生安らかに眠り下さい。